

パワーリベラメンテの展開(7)  
—個々の機器への適用(2)—

1. 始めに

前報(6)に引き続き、EMT981のCD再生ルートに適用してみました。

2. タップから機器へのパワーリベラメンテ給電の試聴方法

前回は、まず始めに2-2A) デジタル入力系から電源を取っているDA-3000とMYTEK DIGITAL 192-DSDを対象としてパワーリベラメンテの効果を調べてみました。今回は、EMT981のCD再生ルートであるEMT981とCCV-5について実施します。EMT981は2-2C) デジタル入力系のタップから、CCV-5は2-2A) デジタル入力系のタップから電源を取っていますので、これらの付属ケーブルをパワーリベラメンテに交換します。

3. タップから機器へのパワーリベラメンテ給電の試聴結果

EMT981の電源ケーブルのパワーリベラメンテへの交換では、音の変化の方向性としては、前報(6)のDA-3000の場合と似ていますが、EMT981の特徴であるアナログライクなより芳醇な方向を推し進めたようになります。

CCV-5の電源ケーブルのパワーリベラメンテへの交換では、EMT981の場合に比べて、よりニュートラルで端正な方向で変化します。

即ち、前報(6)と併せて比べてみますと、それぞれの特徴が出ていて、ウォームからクールへの順序をつけるのであれば、次のようになります。

EMT981 →DA-3000→ CCV-5 →MYTEK DIGITAL 192-DSD

CD再生の信号ラインの機器すべてを交換してみたい誘惑に駆られますが、どれか1台に絞って選ぶとなれば、CCV-5かなというところです。

4. まとめ

EMT981とCCV-5についても電源ケーブルのパワーリベラメンテへの交換の効果を認めましたが、前報(6)と同様、各機器の特徴がより鮮明に出てくる方向への変化でした。

以上